

北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議

平成26年度 第1回分野別会議 主な意見について

1 地域包括支援に関する会議（平成26年5月30日、市庁舎 大集会室）

【次期高齢者支援計画について】

- ・ 地域包括支援センターを市民に対し計画的に周知してほしい。
- ・ 地域包括ケアシステムの構築に向け、地域包括支援センターの機能をより充実させるべき。地域包括支援センターの機能強化を図ることで在宅介護医療連携拠点等の新システムへの移行が円滑になる。

【地域包括支援センター運営状況について】

- ・ 地域包括支援センターの自己点検における問題点をセンターごとに整理し、課題と解決策をより明確にしてほしい。

2 介護予防・高齢者活躍推進に関する会議（同6月2日、市庁舎 大集会室）

【高齢者等実態調査等の結果について】

- ・ 実態調査結果の否定的な意見や不満足な意見の原因を解明する必要がある。
- ・ 調査票未回収の中には回答が困難な方もいる。調査結果だけでなく深い分析が必要である。

【事業別実施状況について】

- ・ 事業の推進にあたっては費用対効果を考えなければならない。
- ・ 対象者が事業に依存する傾向や事業後の身体機能低下傾向などの追跡調査を行えば対策を立てやすい。
- ・ 二次予防事業対象者で事業参加につながらない人たちについて対応を考える必要がある。
- ・ 公的サービスでは限界がある。ボランティア等が介護予防について果たす役割を考えたい。

3 介護保険に関する会議（同6月3日、市庁舎 大集会室）

【第6期介護保険事業計画について】

- ・ 介護保険制度見直しの中で、適切なサービスに結び付けるため、地域独自のサポート体制の検討が必要である。
- ・ 介護サービス量と財政負担のバランスを考えて計画をつくるべきである。
- ・ 予防給付（一部）の地域支援事業への移行について、地域包括ケアシステムの市民への周知理解が必要である。一定の専門性のある者の介護で予防効果が維持できていることを踏まえて対応してほしい。

4 認知症対策・権利擁護に関する会議（同6月16日、市庁舎 82 会議室）

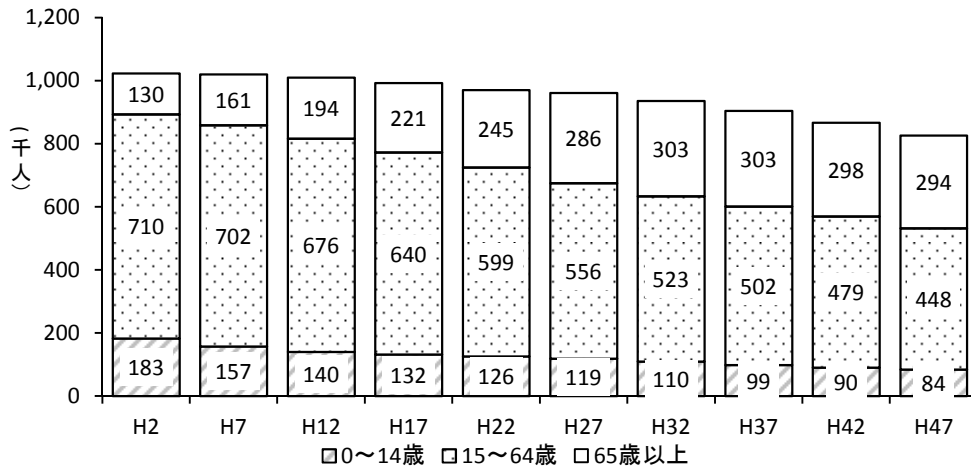
【高齢者等実態調査等の結果について】

- ・ 状況の悪い方からの回答が少ない可能性があり、それをどう計画に反映させるかが課題。

【事業別実施状況・課題について】

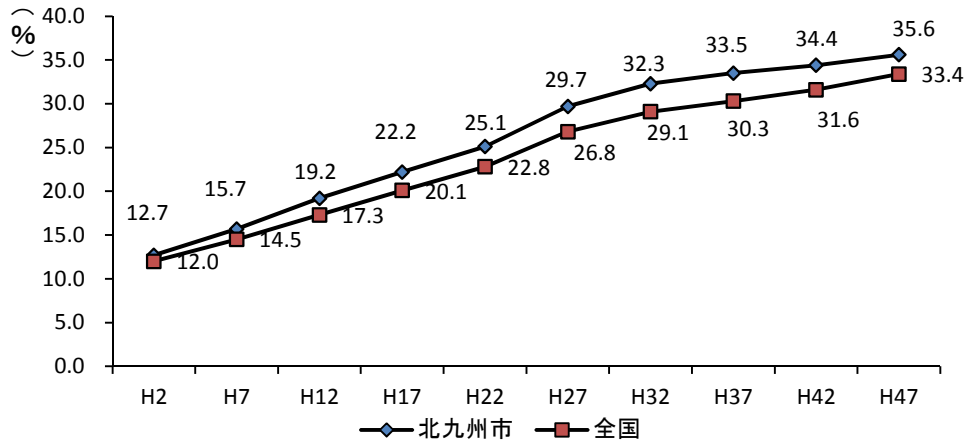
- ・ かかりつけ医と調剤薬局の連携が認知症の早期発見につながる。
- ・ 徘徊高齢者対策として GPS の有効性は明らかだが利用が進まないため、家族の理解など改善策が必要である。
- ・ 「高齢者のための脳の健康教室」は参加実績が少ない。予防の観点からもっと力を入れてほしい。

1 年齢三区分人口の推移及び将来推計(北九州市)



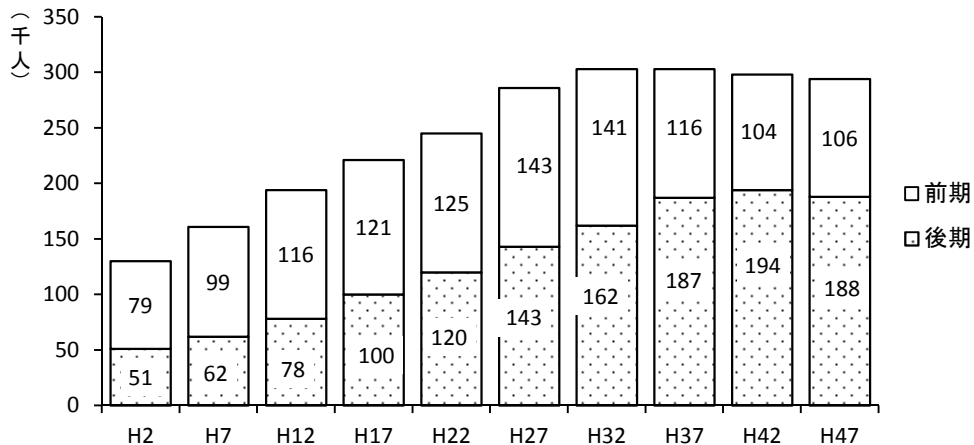
【出典】平成2年～22年は国勢調査
平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

2 高齢化率の推移及び将来推計(北九州市、全国)



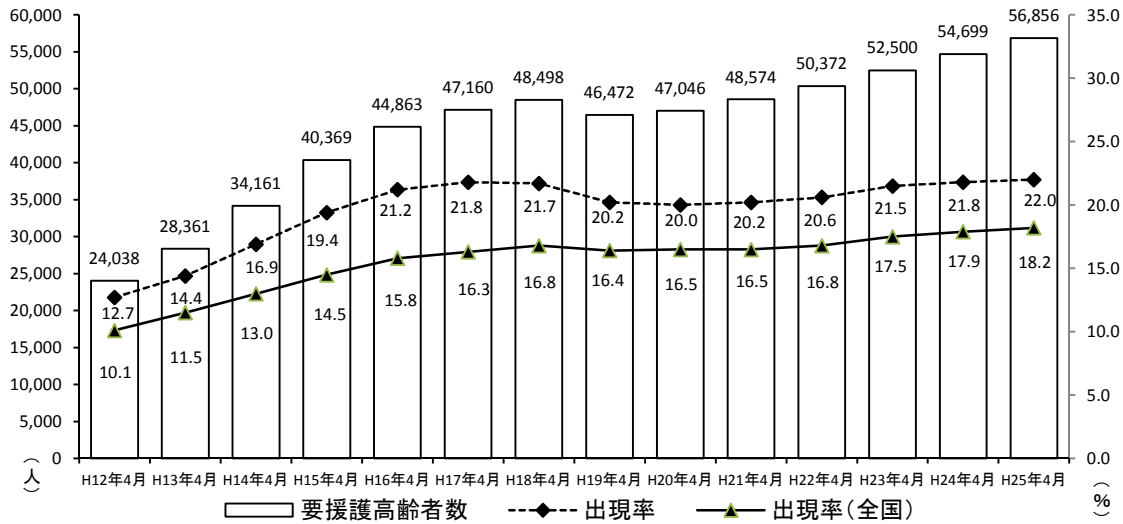
【出典】平成2年～22年は国勢調査
平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

3 前期・後期高齢者人口の推移及び将来推計(北九州市)



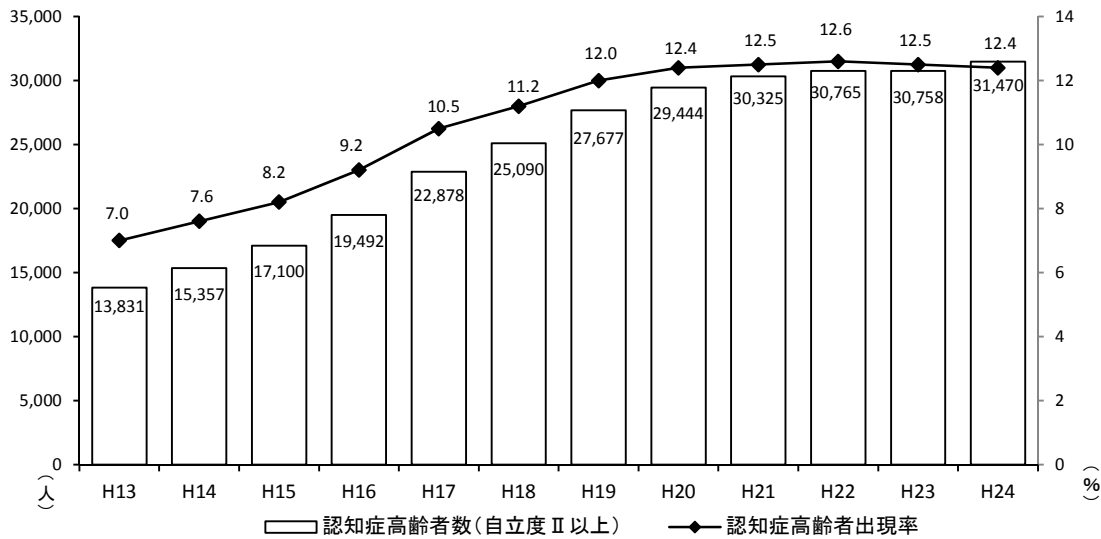
【出典】平成2年～22年は国勢調査
平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

4 要介護(支援)認定高齢者数の推移(北九州市、全国)



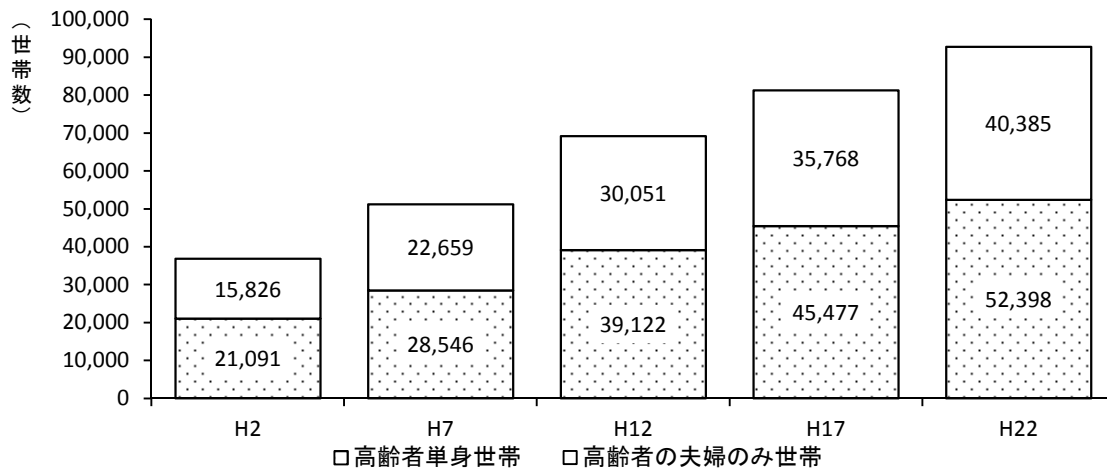
【出典】北九州市は「北九州市の介護保険(年報)」、全国は厚生労働省「介護保険事業状況報告(暫定)」

5 認知症高齢者数の推移(北九州市)



【出典】北九州要介護申請訪問調査・自立度別データ(各年9月末現在)
認知症高齢者数は住所地特例を除いたもの

6 高齢者単身世帯及び高齢者の夫婦のみ世帯の推移(北九州市)



【出典】国勢調査